

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2015年産オランダ産/フランス産百合球根在庫表送付にあたり

9月期オランダ・フランス出張報告

平素よりお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

7月18日在庫表発行後、しばらく球根市場流通情勢に大きな変化がなかった為、改定在庫表を作っておりませんでした。

球根産地側は、春咲き球根（チューリップ・ヒヤシンス・クロッカス etc.）の掘り取り出荷作業を概ね終了し、いよいよ夏咲き球根（百合・ダリア・グラジオラス etc.）の掘り取り準備作業を迎えました。

ここに至るまでの世界市場における百合球根流通情勢・球根作況予測等から、球根在庫状況・現地価格に変化が出てくる時期を迎えました。

新在庫表送付いたしますので、よろしくご確認ください。

9月期出張報告

球根流通情勢調査・オランダ産球根/フランス産球根作況調査

1) 球根流通情勢

①7月下旬に発行された百合球根栽培面積表は、戸惑いをもって受け止められました。

定植前に球根取扱輸出業社、球根取引仲介市場等が行った、球根農家からの聞き取り調査集計とはかなり違った結果が出たからです。

LAは、5～10%の面積増加を予測していましたが、約20%の面積増加となりました。

0.H系は、ほぼ予測通りに減少。優良ロット確保が難しくなる??優秀な農家が0.T系球根栽培へ移行? 良い農家に日本向け0.H系生産を実行してもらおう球根流通市場環境を考えたい。

0.T系増加は期待通り（世界市場）。濃赤・黄色を中心に球根販売も順調との事。世界市場ではいよいよ0.H系切花生産が減ってくるのでしょうか?

但し白系0.T系、一部ピンク品種の増加は、想定以上だった様子。（今在庫表から対象品種の価格が大きく下がる方向で変わってきています。）

②世界市場において球根過剰感が出てきている。

オランダ：EU/ロシア問題、EU 関内経済問題、中東・アフリカ情勢等の影響から、切花価格低迷。夏作を中心にかなり深刻。

ニュージーランド/オーストラリア：球根輸入業者が存在しない国。従って球根過剰輸入に気が付けなかった。切花市場が暴落して、過剰に気が付く有様。10%内外の過剰。業界情報は大事!

ベトナム：日本国百合産業バブル期に似通った状況。

『ファーストリライズ』と言われる 94～96 年当時の日本の状況に似てきた。まだ過熱中。(日本では 97～98 年以降、複数の球根業者が廃業・撤退した。)

台湾：輸入業者再編。過剰な球根販売競争・新規参入した 3 軒の会社等の動きがあり (1 件の輸入業者が廃業した結果、3 軒の独立組が新会社設立しての参入。)、結果 20%内外の過剰輸入。

800～1,000 万球過剰? (4,500～5,000 万球が市場キャパシティなのに)

韓国：唯一期待されていた市場だが、ほんの 1 ヶ月～40 日前に発覚した約 1,000 万球 (10%以上) の過剰感。2 軒の大手輸入業社で 85～90%近いシェア率で市場形成されているはずなのに…。

なぜこんな失敗するのか? これで 3 回目です。輸入業社の過剰な販売競争が原因なのでしょうか?

ブラジル：鉢物用百合球根が大量に流通している。不調だそうです。

各国の市場報告は、全て 14 年産百合球根流通についての分析ですが、当然 15 年産球根流通販売に大きく影響します。

中国：とりあえず、14 年産球根輸出作業はほぼ計画通りに進んだとの事。切花価格は安定している。為替問題、過剰な球根販売競争から、切花市場とは逆に輸入業社は落ち着かない情勢だそうです。15 年産取引は、前年比較でかなり遅れているとの事です。

いまや中国市場は、世界の球根流通のバランス的役割。余れば片付けてくれる。(但し原価割れまで叩く。不足すれば欠品対象国。)

中国もシタタカ。ロシアもシタタカ。お互い必要なんでしょうね。

北アメリカ・その他中央・南アメリカ：特別なコメントは無い。聞取りできなかった。

アジア諸国：特別なコメントは無い。聞取りできなかった。

2) 作況 (あくまでも現段階での作況予測、品質傾向予測には至っておりません。)

ロシア 東部 (オーバーライセル・デレンテ・フリッツラント)

O.H/O.T 系・日本向け L.A 品種など、重要な球根生産地となっている。

2002 年から 15 年まで毎年同時期に圃場調査に入っておりますが、私の記憶の中で最も上根量が少なく (平年の 30～50%くらいしかない)、作の悪かった 13 年産よりもさらに肥大が悪いように見えました。

まだ生産量の少ない O.H 系新品種・日本向け品種 (O.H 系/L.A 系共に) の欠品が心配されます。

本来この地域の球根は『力』の点について意見が分かれていますが、『作況の安定度』は高いと言われている。ここ 2～3 年、天候に泣かされているのです。

ロシア 南部 (リングルグ・ブラボント)

O.H/O.T 系。重要な球根生産地。

東部に比べればいくらかは良い様だが、平年よりは目に見えて劣る。リングルグよりブラボントの方が良い。ブラボントは、V.Z 社自社農場がある地域。欠品しないしてほしいものです。

やはり暖かい地域なので球根の平均品質は良いのだが、作のバラつきは多いようです。

ロシア 北部 (アンポローナ・ノースイストポルター)

O.T 系新品種が多い、W.F 社の主要生産地。(クリスタルブラカの肥大が 1N 球 12/14 養成球サイズの肥大状況ですら、1.5～2 cm 足りていない。)

ノースイストポルターは、L.A 系の最大生産地。日本向け L.A 品種は?むしろ東部/南部生産面積の方が多い!東部と南部の中間くらいの作況。従って平年より良くない。

ワシントン産の作況がここまでの所「不良」となりそうな予測をしてしまう理由は、4～6月までの『最低気温の平均』が低すぎるから（雨量・日照量は、適正だったのだが…）。

13年産同様、2N球の肥大が良くない。（春の天候が悪いと、2N球の作況に影響が出やすい。実際、13年産の2N球の欠品率は高かった。）

13年産同様、チュリップ花芽形成・アリスの掘り取り時期等が1週間～3週間遅れています。

病虫害防除の薬散を、平年より長期間実行しなければならない（太っていないので枯らすわけにはいかない）結果、充実の遅れから掘り取り出荷作業が遅れる可能性が出てきていることを心配しています。

14年産は、9月/10月/11月の陽気が良かったので球根はものすごく太った。

逆に秋の気温が高すぎて、低温積算が足りていない球根となってしまったが…。

14年産は、13年産/15年産と違い、4～6月の気温が高い。2N球の成績が、遅い切花作型でも良くなりやすかったはず。例えばビビアン・シベリア2N球。（低温積算・休眠打破は別問題。）

15年産は、春に温度不足で上根量が全然足らないのに、ほんの短い期間だけだったが、夏の干ばつで水不足のところが若干ある（耐えきれない）。

その後8月中旬以降日照・大雨が各地で確認されている。既に水害の確認がチラホラ。（今年の新潟見たいですね。）

休眠打破のペースの為に（メリハリがついていて）良いのだが、ひたすら肥大が心配な情勢です。

短い夏だったが、『十分な力の蓄積』に寄与しているか？まだ分かりません。

本年よりネマトーダ対策用農薬規制が厳しくなっている（主に下根に対して）。いくつかの畑でそれが確認できています。

フランス産

6軒の球根生産会社を視察。

作況は優秀に見えました。

4～6月は好天に恵まれ、上根は十分に確保できたようです。今年のワシントンの天候と一番違う所。（これが重要。切花栽培と一緒にですね！！）

7月8月は、100年に2～3度という異常高温・干ばつに見舞われたとの事ですが、上根がしっかり張っていたので耐えられた様です。1週間で60mmを超える灌水作業が出来た農家とそうでない農家では当然差が付くと思いますが…。

夜温30℃越えが、10日間連続…昼間42℃越えが1週間連続…。ビックリしました。百合は強いですね～。

14年産のフランス産は、夏の気温が30℃を超えることが少ない。フランスとしては、涼しい年だった。

15年産では、ワシントンとフランスで夏の気温差が大きく開いています。（そして春のスタートダッシュの差…。）

14年産では、ワシントン/フランス産の品質差（球根耐暑性・発根性・奇形発症率etc.）は、少なかったとの事ですが、15年産ではそれらの差が大きく付くであろうと予測しています。

14年産では、フランス産は到花日数がワシントン産に比べて長くなる事が確認できています。

さらにわかった事として、夏作ではフランス産球根からの切花と、ワシントン産球根からのそれと比較して、同一切花産地の商品品質比較で、花保ちが全然違った。水上げでも差が付いた。

ここでも確認できることは上根量の差がその差を作っているように見えるという事。切花栽培時、高温期

に上根を張らす重要性！

日本市場は、8月末までに約660万球のフランス産を輸入している様ですが（植防統計）、15年産については、870万球くらいまで増加するのではないかと予測しています。（当社のみで約110万球増加予定。但し欠品しなければ…。）

14年産オランダ産輸入量はその分減っています。

今後、鉄砲百合/L.A等の日本向け品種の生産が拡大すれば、容易に1,000万球を超えてくると考えられます（フランス産鉄砲百合球根生産面積は、オランダのそれをはるかに上回っている。鹿児島産みたいなものですね！）。

日本が輸入している北半球産/南半球産、0.H/0.T系営利栽培農家向け球根の推定輸入量は、

北半球産約5,800万球（オランダ産5,150万球、フランス産650万球。）

南半球産約2,200万球（N.Z産1,600万球、C.H産600万球。）

総輸入量の20～25%くらいがフランス産になってくれれば、切花・球根、市場供給安定度はさらに向上してくれるのではないかと期待しています。（5～8月期定植作型用。年によっては9月20日定植くらいまで。）

日本向けリエンタ系生産品種が増加してくることが最大のカギ。

※オランダ産0.H/0.T系開花球の日本の輸入量は、ピーク時1億球を超えていた。南半球産の増加・フランス産の増加・日本のゆり切花産業の為に、良い事だが、オランダ球根生産業/流通業は（特にオランダの球根農家は）、どのように日本市場について考えているのだろうか？

本当は、総輸入球数の増加につながればなお良いのですが…、まずは切花品質・球根品質向上の為に！

今回の調査を終えての感想

- 1) 栽培面積は、想定外の増加（L.A中心）
- 2) 世界の主要球根消費国の同時過剰感。

この2つを併せたら、今後球根価格大暴落という予測となります。一体各国の消費量は、どう動くのか？

3) 9月10月の2ヶ月間の肥大期間を残しているとはいうものの、9月の平均気温が14.5℃以下、10月の平均気温が12.0℃以下となれば、生産地域ごと品種ごとに差は出ると思いますが、平年並みの作況に到達できる産地は少なくなるのではないかと思います。（通常の平均気温では足りない…。暖かくならなければならぬという意味です。）

14年産は平年より10～15%作が良かったとの事ですが（過剰感のもう一つの要因）、15年産は面積が増加していたとしても0.H系の様に、栽培面積が減っている分野もあるわけですので、日本市場日本向け品種については代替え品種確保作業に追われることとなりそうです。（世界需要は、大球を中心に0.H系から0.T系に移行している。0.H系の消費量を減らす流れ？この影響は？）

追記

※15年産南半球産リエンタ系推定確保量（8月末聞き取り調査）は、リーマンショック以降久しぶりの2,200万球以下となりそうです。これは14年産との比較で約65万球の減少！（にもかかわらず、業界在庫は多い…。15年産は、オランダ産入荷が遅れることが予測されますので、この業界在庫は大切に販売しましょう。）

今月後半より、国内出張開始いたします

10月には、当社夏秋試験ガーデンも始まります。

曇天の為、少し丈が伸びすぎておりますが、面白いと思いますよ！

よろしくお願ひ致します。

詳細は、お問い合わせください。

以上 森山 隆